» 水泳の単元計画例と評価計画例

水泳は学習する季節が限定的であり学習時間も少ないことから，単元計画そのものではなく学習計画立案の留意点を述べる（図２）。

１）学習形態について

①男女共習

多くの学校では，生徒の個性尊重の観点から生徒の選択を重視し，男女共習で学習が進められている。しかし，まだ男女別習で行われる場面もある。

本来水泳では，指導者と監視者の複数でそれぞれの役割を分担して学習しなければならない。保健体育科の教員が多く，別習でもそれぞれの役割分担が可能な場合はよいが，生徒数の減少に伴い教師が少数の場合はできない。このような場合，男女共習にすることで，教師の１人が指導に当たり，もう１人をプールサイドからの監視者とすることができる。

②学習集団形成の工夫

水泳では，水に顔をつけられない生徒，呼吸法が身に付いておらず一呼吸分しか泳げない生徒，数百メートルを難なく泳げてしまう生徒など，生徒の能力差は非常に大きい。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編の「水泳」にあるように，長く泳ぐことや速く泳ぐことが目標に掲げられている。そのため生徒の目標も，泳法を身に付けること，長く泳ぎ続けること，速く泳げることなど多岐にわたることから，目標別の学習集団で学習することが望ましい。

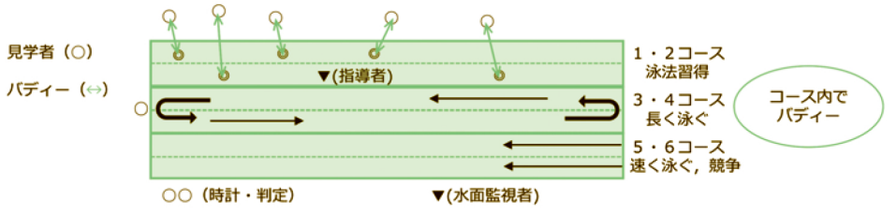
２）見学生徒の活用

水泳では比較的見学者が多い傾向が見られる。見学者を有効活用することで，水中での安全はより高まる。

水泳の授業では，基本的にバディーを組み生徒の安全確保を行うが，特に泳法を身に付ける集団では，見学者とバディーを組むとよい。「手の動き」，「足の動き」，「呼吸動作やタイミング」，「手足の動作の調和」などプールサイドから見てもらう助言は大いに参考となるとともに，安全の確保にもつながる。見学者も単なる見学ではなく，学習参加することになる。

MEMO -----

図２　学習の場の工夫と見学者の活用



» 水泳の各観点の具体的な評価項目例

水泳

【知識・技能】観点の評価項目例（クロールの技能習得の場合）

	技能	評価項目	時間 1	2	3	4	5	6	7
クロール	手の動作	前方遠くの水をつかむように手を入れる							
		体の中心線に沿って水をかく							
		ももに触れるまで力強く水をかく							
		水中から腕を肘から抜き前方に伸ばす							
	脚の動作	バタ足は足首の力を抜き，股関節から動かすように行う							
		脚をムチのようにしなやかに打ちおろす							
		蹴り上げは，膝を曲げずに力を抜く							
	呼吸法	顎が肩につくように顔を上げる							
		腕の動作の終わりの段階で顔を上げる							
		水中で鼻から息を吐き，肩越しに後ろを見るように顔を上げ息をする							
	コンビネーション等	手と脚の動作の調和が図れている							
		呼吸法と手足の動作の調和が図れている							
		25mを泳ぎ切ることができた							
		安定して25mを泳ぎ切ることができた							
		より長い距離に挑戦できた							
		25mを力強く速く泳ぐことができた							
		仲間と競争を楽しむことができた							

【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】観点の評価項目例

(p.50 図2の考え方の場合に加える事項)

観点	評価項目	時間 1	2	3	4	5	6	7
思考・判断・表現	学習する泳法について，課題が把握できた							
	バディーの助言が課題の解決に生かせた							
	バディーの改善点を指摘してあげられた							
	バディーの改善状況を判断できた							
	学習する泳法について，課題解決に貢献できた							
態	バディーの安全に配慮することができた							